

やくばしょくいん しばたまち しょう ちゅうがくせい みな
 役場職員から柴田町の小・中学生の皆さんへ
 ふくちようちょう み と とし み
 副町長 水戸 敏見

「感染者の差別が起きないように」

さいきん に ゆーす まいにち しんがたころ なう いる す わーど みみ がっこう
 最近、ニュースで毎日「新型コロナウイルス」というワードを耳にする。学校の
 せんせい がかかると きゅうこう に、こ どもがかかると ほごしゃかい おこな
 先生がかかると休校に、子どもがかかると保護者会が行われたりするそうだ。
 いちど かかってしまうと しゅうい ちゅうめい 目で見られるともきいた。また、かんせんしゃ
 一度かかってしまうと周囲からは冷たい目で見られるとも聞いた。また、感染者が
 に ゆーす しんぶん おお と あ ようす み
 だとニュースや新聞などで大きく取り上げられる。その様子を見て、ぼくは「お
 かしいな」と感じるようになった。

なぜかという、いんふるえんざ と同じようなかんせんしょう なのに、いちど
 原因かという、インフルエンザと同じような感染症なのに、一度それにかか
 ると まわ さべつ う 周囲から差別を受けているような気がするからだ。それはじんけんもんだい
 りと周りから差別を受けているような気がするからだ。それは人権問題にもかか
 わるのではないか。つまり、メディアで大きく取り上げ、人々の間で恐怖と不安
 をうむ。それをまた、メディアが取り上げるという負のスパイラルが、日本をと
 りまいていのではないか。かんせん 温かい目で見えてあげてほしいなと思
 う。 (福岡県筑后市・中学生)

ふくおかけん す ちゅうがくせい がっこうしんぶん よ ぶんしょう むね あつ
 福岡県に住む中学生が、学校新聞に寄せた文章です。胸が熱くなりました。
 いぎりす てれびに ゆーす ちりょう お きたく ひと きんりん かた たちが かい
 イギリスのテレビニュースで、治療を終え帰宅する人を、近隣の方たちが「お帰
 りなさい」と あたた でむかえ ようす つた う いる すかんせんしょう かか
 りなさい」と暖かく出迎える様子が伝えられていました。「ウイルス感染症に罹
 った人が悪いんじゃない。忌避すべきはウイルスなんだ」ということを心こころに刻ま
 なければと思おもいます。これだけの厄災やくさいです。いつ身近みぢかに感染者かんせんしゃが発生はっせいしてもしか
 たありません。でも多くおほくは、本人ほんにんには何なんの落ち度おちどもないは
 ずです。みんなみんなで、社会しゃかいで、状況じょうきょうを受け入れ、そして手
 助けたすけをしあいながら感染症かんせんしょうの収束しゅうそくを待つ。それ以外いがい、手立てだ
 てはありません。「正しく恐おそれる」ということは難むずかしいこ
 とです。「わからない」ことをむやみに恐おそれたり、ごまかし
 て安心あんしんしようとするしことこそ、一番危険いちばんきけんなことだと知るべ
 きです。学習がくしゅうするしかないのだと思おもいます。コロナウイルスとはどういころう性質せいしつの
 物もので、人ひとは、社会しゃかいは、どんな影えい響きょうを受けざるをえうないのか。どうなれば安心あんしんでき
 るのか、またそれはどういほんだんうことによでって判断はん断だん出来るのか。みんなみんなで考かんえていがか
 なければなりません。「正しく安心ただする」そんな日ひも近ちかいはずです。



じかい ふなはざまくにのりきょういくちよう
 次回は、船迫邦則教育長です。